

# 鹿児島が自分の原点



俳優 さわむら  
沢村 一樹さん  
Ikki Sawamura



江戸時代、日置市日吉町吉利の領主だった小松家の第28代当主小松清猷は、幼少のころから才気があり、学問や書道を好んで行い、容姿端麗で礼儀正しく貴公子の気品を持った人物だったと伝えられる。将来の大事と期待されていたが、出張先の琉球国で病に倒れ、29歳という若さで急逝した。

清猷の養子となり、その跡目を継いだ小松帯刀は、幕末の激動期に薩摩藩の家老として活躍し、明治維新に大きく貢献している。

平成20年に放映されるNHK大河ドラマ「篤姫」で、その小松清猷役を演じるのが俳優の沢村一樹さん。

鹿児島市鴨池の出身で、子どものころから映画の世界に憧れ、高校卒業後1年余り経ってから、芸能界入りを目指して上京。モデルとして活躍していたが、平成8年にテレビドラマで念願の俳優としてデビューした。今では映画やドラマ、バラエティ番組など幅広く活躍している。

沢村さんに大河ドラマの見どころや鹿児島への思いについて語ってもらった。

# ドラマを見て鹿児島の人にも奮起してほしい



## 大河ドラマは2度目の出演ですね

今回は鹿児島が舞台なので、出演できて本当にうれいす。僕も含めて鹿児島の間は東京から距離がある分なおさら、故郷への思いが強いと思うんですが、やはり鹿児島の人物を演じることができるとは何ともいえない喜びがありますよ。

## 今回は小松清猷役ですが

いろいろ資料を見ると、小松清猷自身が何かをやったというより、帯刀の父、養父ということで歴史には名前が出てきます。上下関係が厳しい時代の話ですが、

帯刀とは少し年が離れた兄弟に近いような関係で、帯刀を引き立てようとする思いをうまく表現できればいいと思います。

それと清猷を演じるうえで良かったと思うことは、その人の写真や、肖像画などがあまり残っていないということですね。視覚的なイメージがないので、その人が何をやったかで自分なりにその人物像を創り上げることができると思います。

## 見どころは

台本を読んで思ったのは、大河ドラマに出てくる篤姫は、ただ勉強ができる頭の良さではなくて、知恵もあるし機転も利く人で、「空気が読める人」という雰囲気があるんです。そんな機転の利きかただったり、ちよつとお転婆だったりするところに、どんどん引き込まれていきました。そういうところはドラマとして楽しめると思います。

小松清猷は、若い人たちの中ではある程度、力を持った立場なんですけど、その力を押しつけたたり権力を振りかざしたりするのではなく、若い人を盛り上げていくことにその力を生かしていこうとした人物だと思っております。そこに当時薩摩<sup>さつま</sup>人<sup>びと</sup>が

強くなった原点につながる部分もあると思うので、そこをうまく見せていければいいと思います。

## 沢村さんにとって鹿児島は

年に1度は帰ろうと決めているんです。本当はもつと帰ってきて天文館を飲み歩きたいのですが忙しくてなかなかですね。帰ってきた時は、時間を見つけて子どもたちの遊んでいた所をぶらぶらと歩くようにしています。

東京に憧れて、役者という仕事をやりたいと思つて上京しましたが、やはり鹿児島が僕の原点なんです。忙しいと、どうしても「原点」を忘れてしまつたりするので、帰つて来ると必ず子どもたちのところに遊んでいた場所に足を運んで、こんなことをしながらこういうことを考えていたなど思ひ出すようにしているんです。

## 最後に県民へのメッセージを

鹿児島は位置的なことであつて、少し閉鎖的な部分があると思うのですが、僕はそれがある意味いいことだと思つている



小松清猷十歳の時の筆跡と伝えられる額「清浄山」(清浄寺所蔵)。

んです。どの地方都市に行つても東京化されているんですが、鹿児島には方言のような独自の文化が結構残っていると思ふし、田舎だと思いつつもどこか鹿児島人であることを誇りに思つているところもあると感じるのです。

今度の「篤姫」は、1年間を通して鹿児島を取り上げてもらえます。先人たちがやってきたことを見習わないといけないと思ふ、鹿児島人でよかつたと思ふえるドラマです。ドラマを見て鹿児島の人にもさらに奮起してもらえたらと思ひます。

